

渡部 修 市長 退任にあたって

3期12年を振り返って

迷いながらも一直線に行動してこることができたので、過ぎてみるとあつという間の12年間でした。

最初に市長選挙に立候補したときのことを振り返りますと、合併後の4年間で、多岐の課題が見えてきました。多くの課題が早期に実現するためには、あれもこれもと事業化され財政に余裕がなくなっているところに、リーマンショックが起こりました。これでは将来に大きなツケを回すことになる、若い方や子どもたちに負担を負わ

せてはいけない、そんな思いを抱き立候補を決意しました。

選挙では派手な公約は掲げませんでした。合併した意義をもう一度取り戻そう、行財政改革をしっかりとやって新しい磐田市の土台を作り上げようとの思いだけがありました。

この12年間は苦しいこともありましたが、さまざまな課題に果敢に挑戦ができました。

市長に就任した当時、合併後に先送りされていた課題や事業が山積していました。こうした状況の中、一つ一つの課題を整理整頓し、市民第一でスピード感を持って解決に取り組んできました。

まだまだ課題はありますが、

職員の頑張りもあって多くの成果が上がってきたと思っていますし、コロナ禍の今でも安定した財政基盤は確立されていると思っています。これまでの12年間でしっかりとした市の土台が市民の皆さんや市議会、職員などの協力で築けたと思っています。

どのような信念で職務に取り組んできましたか

今、政治が信頼されているかというところではないと思っています。もっと政治が信頼される社会になってほしいと願っています。そのため、私が信念としてきたことは、自分が言ったことは絶対に守るということを常に意識して、これまで職務に取り組んできました。

信念を貫くことは大変難しいことです。これまで私を応援してくれた方の考えに沿わないこともあったかと思いま

す。しかし、そこで躊躇（ちゅうちよ）したり八方美人になっていたら信念は貫けません。信念を貫くために、自分の損得は優先せず、横に置いておくことを常に意識してきました。

これからどのような磐田市になってほしいですか

市民の皆さんが願っていることを一つ挙げてくださいます言われたら、「暮らしやすい街になること」と答えると思います。社会に閉塞感が漂う中、暮らしやすく、隣り近所とも協力し合える風土が磐田市にもできてほしいですね。市役所でも市民の皆さんが何かにつづったときに、寄り添って相談に乗れる場所にしていきたいとの思いから、市民相談センターやこども・若者相談センターを設置しました。これからも知恵を出し合って暮らしやすい磐田市にしていきたいですね。

市民の皆さんへ

先ほど申し上げた暮らしやすい街の前提は、そこに暮らす人々が明るく健康であることだと思えます。健康な体には健全な精神が宿ると昔から言われるように、市民の皆さんには明るく元気でいてほしいです。

昔は経済的に貧しくても目がキラキラしている子がたくさんいました。今の社会は厳しい時代に向かっていますが、そんな時代に立ち向かえるような若者を学校だけではなく地域も含めて育てていきたいですね。磐田の子はなんでもなんにやさしくてたくましいんだらうと言ってもらえるような、明るく元気な磐田市になつてもらいたいです。

渡部 修

